



京都 アカデミア ウィーク 2024

10.21^{Mon} 22^{Tue} 23^{Wed} 24^{Thu} 25^{Fri}

[時間] 14:30~16:00 18:30~20:00

[場所] 新丸の内ビルディング 10階 + オンライン

参加無料

<https://kyotoaw2024.peatix.com/>
※セミナーへのご参加は事前申込制になります

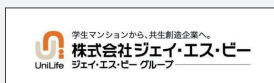
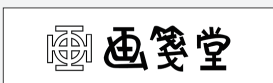


京都の8大学がお届けする
京都の文化・芸術・科学等を堪能する5日間。

京都アカデミアフォーラム in 丸の内とは

京都の8大学(京都外国語大学、京都光華女子大学、京都工芸繊維大学、京都市立芸術大学、京都女子大学、京都美術工芸大学、同志社女子大学、京都大学)が連携し、それぞれの持ち味を活かしつつ、京都の文化・芸術・科学を学術面から情報発信する場として2017年に開設。親子での参加も可能な小学生対象ワークショップ「子ども大学 in 丸の内」や、毎秋恒例の集中セミナー「京都アカデミアウィーク」をはじめ、歴史や伝統と最先端が融合する「京都」の魅力や各大学の特色をご紹介する各種事業を企画・運営しています。

協賛先一覧



京都アカデミアウィーク2024

定員：会場 30名 オンライン 最大250名 対象：一般

※プログラムについては一部変更の可能性あります。最新情報はWeb上でご確認ください。

千年の都 京都から8大学が最新の知をお届けする「京都アカデミアウィーク」の季節がまた巡ってまいりました。京都の文化・芸術・科学等にご関心のある皆様に、さらに一歩踏み込んだ京都の、そして京都の大学の魅力をお伝えしたい—そのような想いからスタートしたこのプログラムも、早8回目を迎えます。今回も皆様の知的好奇心をくすぐる選りすぐりのプログラムをご用意いたしました。会場・オンライン、いずれかご都合のよろしい方法をお選びください。京都をよくご存じの方も、京都をもっと知りたい方も、この秋、知的なひとときをご一緒に。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

10/21 Monday

14:30~16:00 京都外国語大学

- 京のまちなかミュージアムをめぐる ～小学校、大学、通りを知ると京文化のコアを学べます～
南 博史 国際貢献学部 グローバル観光学科 教授



京都の小学校は、明治からの番組小学校が始まりです。学校の歴史と現状を知ることで京のまちなかの自治を担う人々の姿を知ることができます。

また、京都は大学のまちです。まちなかの大学ミュージアムは京都の町を知る隠れた名所です。歴史にむすびついた通り、とくに商店街をとりあげようと思います。

18:30~20:00 京都大学

- 藤原道長と光源氏 — 歴史的事実と物語のあいだ —
上島 享 文学研究科 教授



藤原道長が権力を掌握できたのは天皇の外戚(ミウチ)ゆえだが、外戚たるのが道長政治の究極の目的ではない。最終的に道長はどのような権力を目指したのだろうか。また、道長の娘彰子に仕えた紫式部は、道長の権力を間近で見ており、それが彼女の創作活動にも影響を与えた。現実を生きた道長と物語の主人公たる光源氏、その両者の権力は意外にも共振している。具体的な事実を積み重ねながら、これまでにない、藤原道長・光源氏が目指した政治の姿を描きたい。

10/22 Tuesday

14:30~16:00 同志社女子大学

- 和食を科学的に考える
今井 具子 生活科学部 食物栄養科学科 教授



2013年に、和食はユネスコ世界無形文化遺産に登録されました。食文化の独自性だけでなく、健康的な食事であることが、登録理由のひとつです。では、和食が健康に良いことは科学的に証明されているのでしょうか。和食以外にも健康的な食事はあるのでしょうか。講義では最新の論文を紹介しながら、和食が健康や環境にどのように影響するのか、科学的に考察し、私たちや地球環境にとって望ましい食事について考えます。

18:30~20:00 京都工芸繊維大学

- 描かれた京の名所 — 「洛中洛外図屏風」の成立をめぐる —
井戸 美里 デザイン・建築学系 准教授



都のランドマークを描く「洛中洛外図屏風」は、応仁の乱など内乱による荒廃を経て16世紀初めに誕生した新たな京都の都市像である。四季折々の名所の風景は、かつては和歌にも詠まれ、襖や屏風に描かれてきた。一方で「洛中洛外図屏風」は、従来の和歌の描写を背景としつつも、名所の位置や方角などを配慮し、実際の行事や風俗に取材している点でそれまでの作例と大きく異なる。本講義ではこのような京の名所イメージの形成の過程を辿ってみたい。

10/23 Wednesday



18:30~20:00 京都新聞 (協賛企業・団体)

- 創業者渡仏から100年 ～パン店 進々堂の経営～
続木 創 株式会社進々堂 代表取締役社長



進々堂は今年、創業者の続木齊が1924年に渡仏してから100年の記念年を迎えました。齊はバゲットなどのフランスパンの製造技術や文化を学んで帰国したのち、京都でフランスパンの製造・販売を開始しました。以来、京都を代表するベーカリーショップとして成長を続けています。本講座では、紀元前6千年頃から始まるといわれるパンの歴史を紹介するとともに、進々堂が創業以来持ち続けてきたパン作りへの思い、企業経営についてもお話しします。

10/24 Thursday

14:30~16:00 京都市立芸術大学

- 京都でめぐるアメリカ文学
齋藤 桂 日本伝統音楽研究センター 准教授



戦後、アメリカの若い世代の詩人たちの中で、東洋思想への興味が高まります。特に1950年代に隆盛した「ビート・ジェネレーション」と呼ばれる文学運動は日本の仏教への関心が高く、中には来日して、より深く日本文化に触れようとする者も現れました。京都はそのような作家・詩人にとって格好の滞在先でした。今回は、そんな詩人たちの書いたものゆかりの場所、与えた・受けた影響等を紹介しながら、京都でアメリカ文学旅行をしてみたいと思います。

18:30~20:00 京都女子大学

- 明治の京都画壇、竹内栖鳳の新しい日本画と高島屋
廣田 孝 名誉教授



竹内栖鳳は明治22年から高島屋で輸出向け染織品の下絵制作に従事した。ここでは西洋画を日本画に仕立て直す等により輸出向けの下絵制作を行っていた。この実践的活動の中で、栖鳳は洋画の写実性を取り込む研究を行った。明治33年(1900)パリ万博出品作「波に千鳥図ピロード友禅掛屏」に、栖鳳はこの新しい表現を持ち込んだ。サラ・ベルナルルの買上げ、パリ万博での名誉大賞受賞により、高島屋は生産品のブランド化に成功した。

10/25 Friday

14:30~16:00 京都光華女子大学 / 短期大学部

- チームで働く力を育むプレゼン技術
森際 孝司 短期大学部ライフデザイン学科 教授



ビジネスにおけるプレゼンテーションの位置づけやコミュニケーションの機能(情報伝達や説得など)、手段、理論を分かりやすくご紹介します。プレゼンテーションの実施に向けて、ストーリーのチェックの方法、リハーサルの実施方法、評価の方法など、プレゼンテーションの実践で必要となる知識をお伝えしたいと考えています。

18:30~20:00 京都美術工芸大学

- ニッポン画 京都の文化資源を現代に活かす方法
山本 太郎 芸術学部デザイン・工芸学科 特任教授



古典絵画に現代の要素が紛れ込んだ作品を制作するアーティストの山本太郎が自分自身の作品である「ニッポン画」について語ります。その中で京都を中心とした日本の文化的な資源をどのように現代に活かすと良いのか、その一例をお伝えします。